

写真／九州協会中学委員会 横尾久己



ジュニア優勝：鞘ヶ谷RS



ジュニア準優勝：大分RS



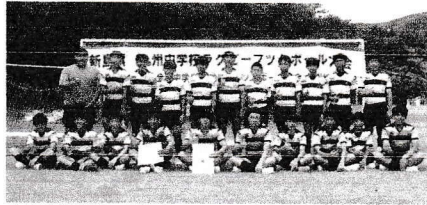
女子優勝：福岡RFC



女子準優勝：長崎県女子選抜



中学校優勝：城南中



中学校準優勝：富島中

▶新島杯第36回九州中学校大会
▶7月30日～8月1日 大分・鶴生スポーツセンター

●Aグループ

熊本大附・龍田中(熊本)	22	22
城南中(福岡)	52	27
ラ・サール中(鹿児島)	5	
川副中(佐賀)	7	
読谷・古堅中(沖縄)	45	7
富島中(宮崎)		14
3位決定戦 読谷・古堅 42-0 熊本大附・龍田		

●Bグループ

自衛館・輝南館・志免中(福岡)	7	7
出水・南山・東部中(熊本)	24	29
百道中(福岡)	7	
高鍋西中(宮崎)		64
託間中(熊本)		5
3位決定戦 自衛館・輝南館・志免 31-10 託間		

鞘ヶ谷・城南・福岡が優勝 九州中学校・ジュニア大会

九州の中学生ラグビーの頂点を争う夏恒例のビッグイベントが、今年も大分県の鶴生スポーツセンターにて行われた。ラグビースクール、女子、中学校の各カテゴリーで、県大会を勝ち上がった代表チームが一堂に会した集大成の大会の様相をレポートする。

九州ジュニア大会

鞘ヶ谷が10回目の栄冠

今年で45回目を迎えた九州ジュニア大会は、7月28日～30日の日程で行われた。決勝にコマを進めたのは、1回戦からバランスのいい試合運びで勝ち上がった大分ラグビースクール(大分)と、第30回大会以来の決勝戦進出を果たした鞘ヶ谷ラグビースクール(福岡)。古豪同士の大対決は、決勝にふさわしい好ゲームとなった。立ち上がりは緊張からかお互いに硬さが見られ、拮抗した展開になる。FWが激しいぶつかり合いを繰り返すも決め手を欠き、得点にはつな

がらず接戦になった。そうした中、鞘ヶ谷が前半終了間際に相手の反則からラックでラッシュを重ね、最後はPR藤谷が飛び込んで均衡を破る。その後大分も反撃し、ゴール前まで攻め入ったものの、得点には届かず前半を折り返した。迎えた後半、7分で大分が相手の落球したボールを拾い、WTB羽矢がライン際を走り切って同点に追いつく。その後は機動力のある鞘ヶ谷FWが猛進するも、大分も体を張った防御でしのぐ一進一退の攻防が続いた。

そして引き分けも見えてきた後半18分。鞘ヶ谷がまたもゴール前で連続攻撃を仕掛け、ついにトライを奪う。その引き分けも見えてきた後半18分。鞘ヶ谷がまたもゴール前で連続攻撃を仕掛け、ついにトライを奪う。その引き分けも見えてきた後半18分。鞘ヶ谷がまたもゴール前で連続攻撃を仕掛け、ついにトライを奪う。

両チームはこの先を見据え、「泥臭く、ひたむきに」鞘ヶ谷・瓜生監督、「ぶつ込みの精神で再度挑戦を」(大分・竹尾監督)との思いを胸に、全国大会へ乗り込む。

九州女子中学生大会

福岡RFCが快勝!

ジュニア大会と同時に開催された女子大会(7人制)では、福岡ラグビーフットボールクラブ(RFC)が栄冠を手にした。決勝の相手は、毎年激戦を繰り広げているライバルの長崎県女子選抜。キックオフ直後に福岡が相手のキャッチしたボールをもぎとって前進すると、大きく展開し先制点を奪う。持ち味のオフロードパスと展開力を活かした開始早々のこのトライで、福岡が序盤から主導権を握った。

九州中学校大会

城南、スタイル貫徹

続いて7月30日から8月1日にかけて開催された中学校大会を制したのは、福岡の城南中。伝統校が自分たちのスタイルを貫き、見事に栄冠を勝ち取った。

献身的なプレーで仲間を率いたの

▶新島杯第45回九州ジュニア大会

▶7月28日～30日 大分・鶴生スポーツセンター

●Aグループ

大分RS(大分)	38	41	5
宮崎RS(宮崎)	5	7	
鹿児島RFC(鹿児島)	7	19	
読早RFC(長崎)	19	19	
鞘ヶ谷RS(福岡)	19	42	10
熊本RS(熊本)	7	12	
ROCK FORCE(佐賀)	12	12	
アカデミー(大分)	36		
コザクラブ(沖縄)			
3位決定戦 読早RFC 41-0 コザクラブ			

●Bグループ

玄海JRC(福岡)	47	26	20
ライジングサン鹿児島(鹿児島)	7	22	
大村RS(長崎)	0	72	
島原RFC連合(長崎)	0	5	
別府RS(大分)	不戦勝		
熊本サンデーズJr(熊本)	0	45	
グランセ延岡(宮崎)	0	38	
草ヶ江YRC(福岡)			
※熊本サンデーズ規定人数不足により別府RS不戦勝			
3位決定戦 長崎RS 43-14 別府RS			

TOPICS 感謝を胸に。

優勝した鞘ヶ谷の柳川主将は、小学校時代に家庭の都合で一時期チームを離れた。「復帰する時、みんなが温かく迎え入れてくれた」と仲間への感謝の気持ちを言葉にする。また今大会屈指のSHと高く評価された大分の小西も、「中学に入ってからラグビーをできない時期があり、挫折しかけた自分を支え助ましてくれた母に感謝しています」と、自身を支えてくれた母への感謝の気持ちを口にしました。

鞘ヶ谷の瓜生監督は、「チームの危機をいつも救ってくれた」と、ムードメーカーの永田を殊勲に挙げた。こうしたそれぞれの思いが実を結び、大きく花開いた大会だった。

その後も福岡は勢いに乗って攻め続け、前半だけで3トライを奪取。さらに後半も攻撃の手を緩めず、2トライを追加して長崎を突き放す。最終的には29-0の完封勝利で、タイトルをつかみ取った。

試合後、平野監督と大内田主将がチームの成長として口をそろえたのは、コミュニケーション能力の向上だった。「やっとしゃべれるようになった」と平野監督が言えは、大内田主将も連携の大切さを述べた上で「やって楽しい、見ていて楽しいラグビーを目指しています」と笑顔で答えた。全国大会に向けては、「ルールが変わっていく中での対応力も決め手になる。コンタクトを強化して、7人制を楽しみながらがんばります」と抱負を述べた。

は、平野主将だ。西崎監督も絶大な信頼を寄せるリーダーは、今大会の勝因としてチームの一体感を挙げた。中学からラグビーを始めた選手も多い初心者集団をここまで引き上げた理由を聞くと、ズバリ「きつい練習です」。西崎監督も「そんなチームだからこそひとつずつ丁寧に積み上げてきた」とチームの成長を喜ぶ。

決勝は前半、前年度王者の富島中がペースをつかみ、持ち前の大きくボールを動かすラグビーで2トライを挙げ先行する。しかし城南も前半終了間際に反撃に転じ、ラック連取から徹底して前に出続けるアタックで7点を返して折り返した。

後半はその勢いのまま城南が流れに乗って攻め続け、2トライを奪って逆転。低い姿勢でラックサイドを前進するスタイルを貫き通し、相手につけ入る隙を与えない。最終的には22-10というスコアで、歓喜のノーサイドを迎えた。

城南を率いる西崎監督は試合後、「県内外を問わず試合に出かけ、強いクラブチームの胸を借り、自分たちのラグビーを模索した『修行』が

実を結びました。胸を貸してください。多くのチームの方に感謝です」と思いを口にした。一方、「このままでは全国には通用しない」と気を引き締める。大舞台でも厳しい練習の成果を発揮してくれることを期待したい。またなかなか自分たちのゲームをさせてもらえなかった富島の森監督は、「パスと展開で相手を揺さぶる『富島らしさ』に磨きをかけ、全国大会までに立て直します」と今後への意気込みを語った。

文責／九州協会中学委員会広報古賀優二